

新漁業管理制度推進情報提供事業－Ⅰ

漁海況予報関連調査

久野正博・山田浩且・山川 卓

目 的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、その結果に基づいて漁海況予報を行うとともに、漁海況情報を迅速に関係業者に通報して漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方 法

熊野灘および伊勢湾に設定した定点（図1）において、毎月1回の海況調査を調査船「あさま丸」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週1回発行した。

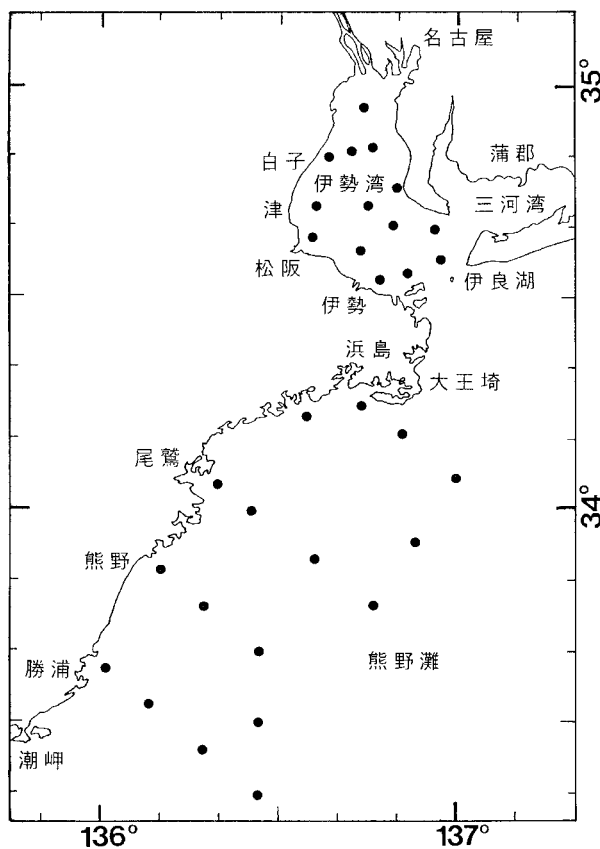


図1 熊野灘および伊勢湾の定線観測点

結果の概要

詳細については平成10年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告するので、以下は概要を記す。なお、漁況については「我が国周辺漁業資源調査」で報告する。

1. 平成10年度の黒潮流路は非大蛇行流路で経過した。

黒潮は5月中旬までN型流路で経過したが、5月末に紀伊水道沖で蛇行規模が急激に拡大し、6月はB型となった。蛇行の東進に伴って7月中旬にはC型、8月下旬にはN型へと移行し、10月中旬までN型が持続した。10月下旬に遠州灘沖で蛇行規模が拡大し、11月にはC型となり、12月下旬までC型が持続した。1月下旬に黒潮小蛇行が潮岬沖を通過し、1月末～2月上旬は一時的にB型となった。2月中旬以降は3月末までC型で経過した。

潮岬沖の黒潮は概ね接岸基調で経過したが、5月末～6月頃は離岸した状態が続いた。短期的で小規模な離岸は、4月上旬や1月下旬をはじめ比較的多くみられた。

黒潮内側反流は4月中旬、5月下旬、6月中旬、1月末～2月上旬にそれぞれ一時的にみられたが、持続的な内側反流は年度を通してみられなかった。一方、大王埼南沖からの暖水波及は比較的多くみられ、11月～1月頃は一時的に強勢となった。

2. 熊野灘沿岸の水温（表1、図2）は、表層では全般に平年並み～高め基調で経過し、特に6月と1月は記録的な高水温であった。一方、中層以深では6月にかなり高めとなった他は平年並み～低め基調で経過した。

4月から5月にかけては黒潮内側反流等の影響で表層を中心に一時的に昇温したが、概ね平年並みで経過した。6月は黒潮蛇行の北上部が熊野灘に直接流入し、北部を中心に6月としては観測開始史上（1966年～）最も高い水温を記録した測点があった。8月にはほぼ平年並みとなり、表面を除いて9月～12月までは平年並み～低めで経過した。1月上旬に大王埼南沖から顕著な暖水波及があり、表層では記録的な高水温となったが、100m以深では平年並み～低め傾向が持続した。その後も大王埼南

沖からの暖水波及は引き続きみられたものの、2月～3月は概ね平年並みで経過した。

浜島の定地水温(図3)は、概ね平年より高め基調で経過し、特に4月中旬～5月上旬、7月上旬と3月上旬～中旬は高水温が顕著であった。平成10年1月28日に水温2.4℃の急上昇がみられ、高めに転じて以降、6月19日まで平年より高い日が続き、特に4月中旬～5月上旬は平年を2～4℃も上回った。6月22～24日は平年値を下回ったが、6月末から再び高水温傾向が顕著になり、7月上旬は平年を3～5℃も上回った。7月後半は平年並みとなったが、8月以降は平年より1～2℃高めの状態が継続し、3月上旬～中旬は平年を3℃程度も上回った。このように平成10年度の浜島定地水温は平年に比べて高めの状態が続き、平年値を下回ることがほとんどなかった。

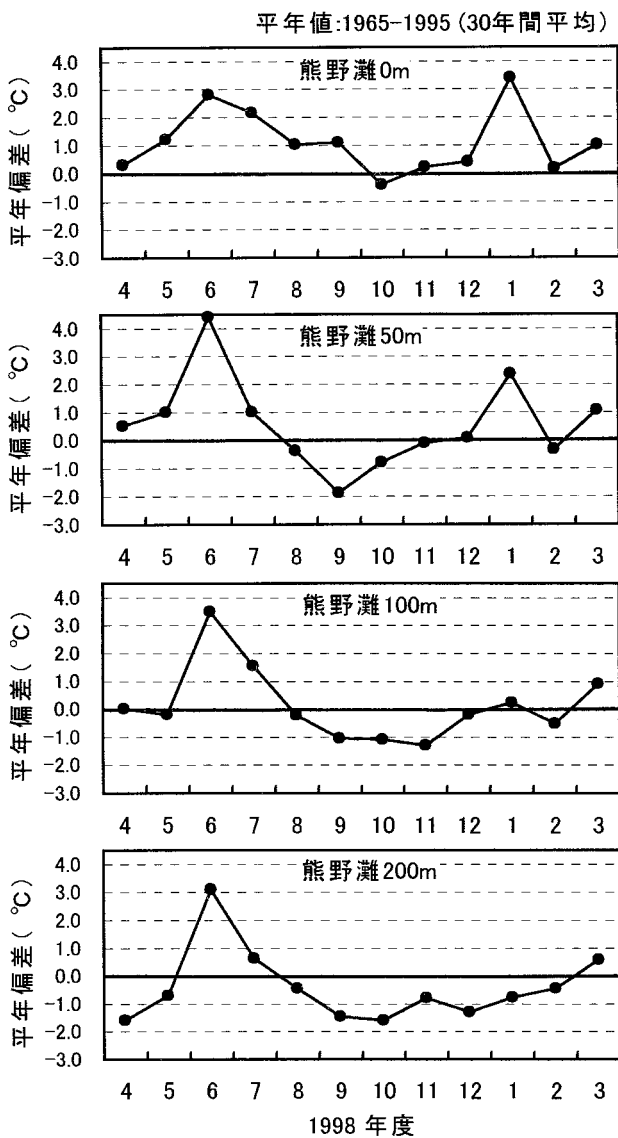


図2 熊野灘沿岸定線全測点平均の年間偏差

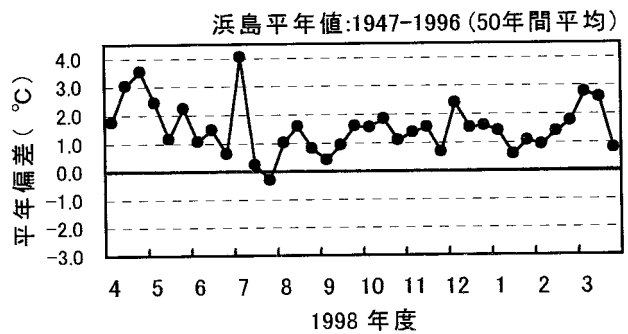


図3 浜島の旬別定地水温の年間偏差

3. 伊勢湾の水温(表2, 図4)は、概ね平年並み～高め基調で経過し、4～5月および10～12月は高水温が顕著であった。

平成10年は冬季から高水温が続き、4～5月も高水温が顕著であった。表面では6～9月は平年並みとなったが、10m以深では高水温傾向が持続した。10月以降は表面を含めて再び高水温が顕著となり、11月は記録的な高水温となった。1月は全層で平年並みとなったが、2月はやや高め、3月は高めとなった。なお、春季の水温上

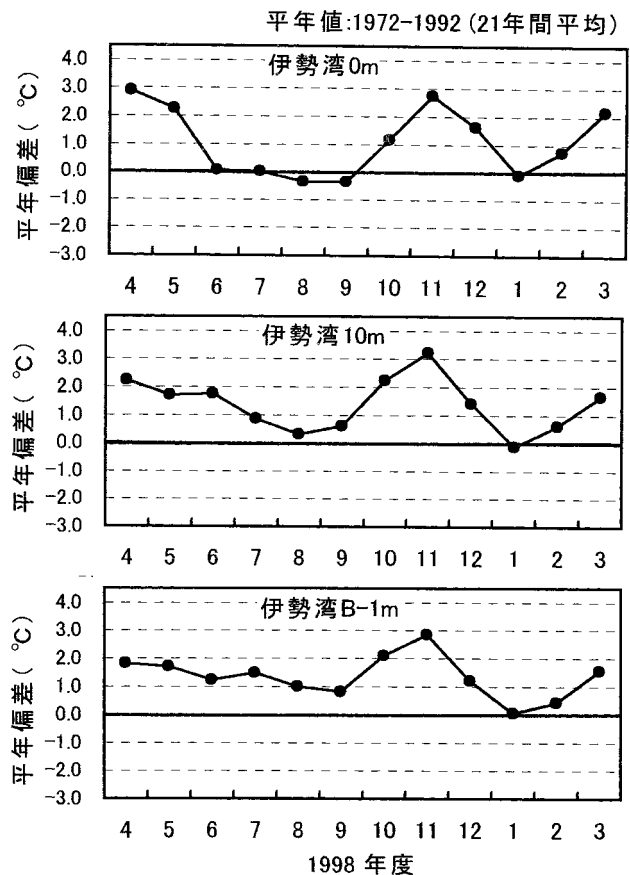


図4 伊勢湾浅海定線全測点平均の年間偏差

昇が早く、秋季の水温低下が遅れたことなどから、夏季の貧酸素現象が平年に比べて長期化し、底層の貧酸素域は5月後半から11月前半まで約半年間も継続した。

白子の定地水温(図5)は、年度を通して概ね平年並み～高め基調で経過した。

4月中旬～5月上旬は記録的な高水温で、平年を2～5℃も上回った。6月は平年並み、7月上旬は高め、7月中旬～9月上旬はほぼ平年並みで経過した。9月中旬～12月下旬は平年より1～2℃高め、1月～3月は平年並み～1℃程度高めで経過した。

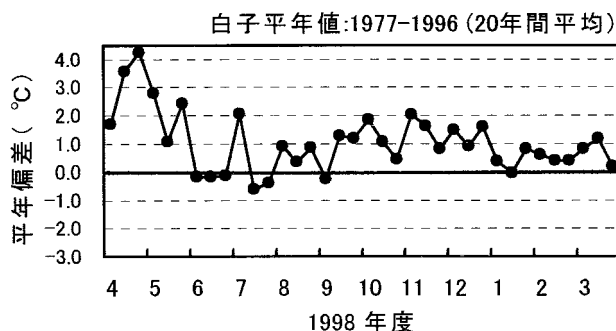


図5 白子の旬別定地水温の平年偏差

関連報文

三重県(1999):平成10年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集).

表1 沿岸定線全測点平均水温・塩分

月	水 温					塩 分				
	0m	20m	50m	100m	200m	0m	20m	50m	100m	200m
4	17.6	17.5	16.6	14.9	10.7	34.27	34.58	34.61	34.58	34.387
5	20.4	20.0	18.0	15.0	11.5	33.91	34.15	34.55	34.54	34.425
6	24.2	24.3	22.2	18.8	15.2	33.73	34.14	34.32	34.59	34.597
7	26.8	23.1	19.2	16.7	12.4	33.28	34.27	34.62	34.67	34.466
8	27.5	22.0	18.0	14.8	10.9	33.14	34.37	34.64	34.58	34.382
9	27.5	23.6	17.9	14.4	10.1	33.23	34.11	34.61	34.55	34.351
10	23.1	22.9	21.4	16.2	10.8	33.51	33.71	34.04	34.43	34.352
11	21.6	21.9	21.1	16.7	11.8	33.38	33.93	34.08	34.50	34.443
12	19.6	19.4	19.1	16.8	11.2	34.41	34.40	34.42	34.53	34.410
1	19.8	19.4	18.7	15.9	12.0	34.61	34.60	34.57	34.54	34.443
2	15.9	15.6	15.2	14.5	12.4	34.65	34.64	34.61	34.58	34.462
3	16.6	16.5	16.3	15.5	12.9	34.70	34.71	34.70	34.65	34.506

表2 浅海定線全測点平均水温・塩分・D O

月	水 温			塩 分			D O		
	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m
4	15.9	14.1	13.9	25.39	31.87	33.13	8.8	6.3	5.1
5	19.7	17.4	16.5	19.91	31.49	32.75	8.7	4.8	3.3
6	21.4	20.1	18.4	25.15	29.94	32.30	8.9	5.4	2.9
7	24.6	21.4	20.4	23.53	31.71	32.56	8.9	3.5	2.3
8	26.9	23.5	22.3	28.41	32.32	33.16	7.1	3.3	2.4
9	25.8	25.0	23.5	28.44	31.86	32.84	7.6	3.5	1.6
10	22.9	24.3	24.3	25.35	30.47	31.99	8.7	4.5	2.3
11	21.0	21.9	22.1	28.68	30.56	32.15	7.2	5.6	5.1
12	16.1	16.3	16.7	31.55	32.05	32.49	7.9	7.7	7.3
1	10.3	10.5	11.3	32.40	32.66	33.13	8.9	8.9	8.5
2	9.4	9.5	9.9	32.33	32.66	32.97	9.0	8.9	8.6
3	11.2	10.6	11.0	31.44	32.50	33.01	8.7	8.1	7.7